

やまびこ

BULLETIN OF YAMAGATA UNIVERSITY LIBRARY

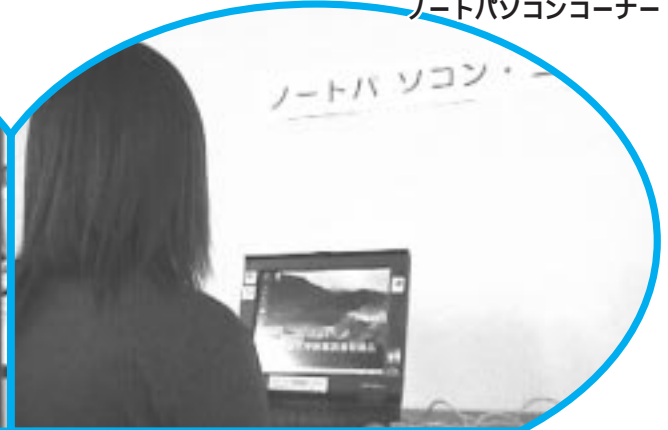
No.47 2001. 10

[蔵王のお釜(火口湖)]

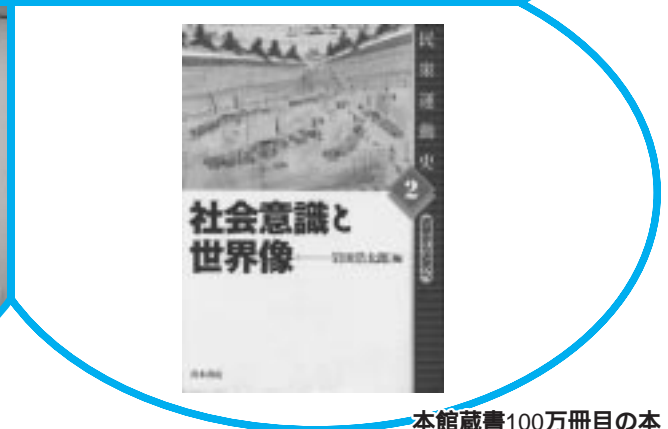
情報プラザ



ノートパソコンコーナー



Open Gallery 八木文子展



本館蔵書100万冊目の本

もくじ

図書館は人々の夢の結晶	農学部分館長 貫名 学.....	2
電子図書館的機能整備のためのアクションプランを推進しています.....		3
自著を語る 本館蔵書100万冊目の本「民衆運動史 2 社会意識と世界像」	岩田 浩太郎.....	3
Web of Science (その内容・機能と使い方).....		4 - 5
ひろば(図書館からのお知らせ).....		6
附属図書館各種委員会委員名簿.....		7
附属図書館協議会審議事項(第1回).....		7
中央図書館ガイダンス計画(平成13年度後期分).....		8
=図書館データ= O P A Cで中央図書館蔵書の44%が検索できます!.....		8

《この印刷物は再生紙を使用しています》

図書館は人々の夢の結晶

農学部分館長 貫名 学

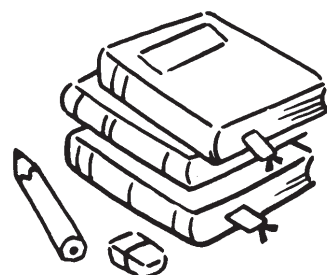
独立行政法人化への動きや、自己評価、外部評価による大学の現状の公開など、昨今の大学を巡る情勢は、何かと目まぐるしい。大学改革という言葉も日常化しているようだ。もっとも、大学改革といった言葉の本質に何を捉えるのかは、人により異なるだろう。ただ、これから迎える大学淘汰と呼ばれる時代、また大学の冬の時代とも呼ばれる時を乗り切るために、それぞれの大学が奮闘しているということは、共通しているのかもしれない。

さて、図書館はどうなのだろう。この4月に農学部分館長に選出され、その立場になると、図書館のことを極めて身近な問題として考えるようになった。私は、以前からも、図書館は学術の中心である大学の、そのまた中心に位置する、極めて重要な役割を担っている部局である、と考えている一人である。昔、ハワイ大学に海外研修に行った時の光景が思い出される。ハワイ大学のオアフ島にあるキャンパスの中心には、ハミルトンライブラリーと呼ばれる図書館があり、その充実した蔵書、よく整備された書架、専門の図書員、そこかしこにあるコピー機などによくお世話になった。そんなキャンパスがうらやましかった。そこで取った文献のコピーは、多少インクの出が悪い粗製のものもあるが、今でも私のA4サイズの袋ファイルに多数入っている。

現在では、文献調べはインターネットを介して、Chemical AbstractsやWeb of Scienceなどのデータベースに簡単に接続でき、またキーワードを始め様々な書誌事項により瞬時にして検索できる。その昔、私の学生時代には分厚い製本になったアブストラクトを一つ一つ取り出しては、机の上にデンと置いて、そのページをめくった時とは、比べるべくもない。もっとも、机の上のパソコンから検索すると、時にはヒットする論文の数がベラポウになり、たちまちにして何枚ものプリントになってしまう。もし全ての論文を取り寄せて、読破するとすると、何年かかるのかと途方に暮れてしまう。また、欲しい情報が得られているのかどうか、また、もう他に関連する論文は、ないのだろうかとの不安もあるのが常である。これは、現在の多くのデータベースが、タイトルや抄録が中心で、論文の全文が載ってはず、またそのフレーズに机上のパソコンから到達できないことからくるフラストレーションである。

いずれ、一つ一つのジャーナルに載っている全ての論文について、その全文のデータベースができ、瞬時にしてそのキーワードの入った論文とそのフレーズが検索でき、また机上ディスプレイに表示される時代が来よう。そしてフランス語やロシア語など不得意な外国語についてはクリックすると日本語に翻訳されて表示されるようになると思われる。それは、とても楽しみである。昔の人々の行った実験を記述したフレーズは、不変の実験事実が記載されている限り、いつになっても輝いている。過去に行われた実験の全てが記載されたデータベースがインターネットを介して結ばれ、いずれは誰でもがアクセスできる時代がそこまで来ているように思う。この巨大なデータベースは、人類がこれまでに築き上げた殆ど全ての実験事実を網羅しているものとなる。それは人類の共通の財産として維持されるべきものであろう。もっとも特許に関係するものは、秘密のベールに包まれる時もあるだろうが、時が経てばやがて明らかになる。また社会科学の論文では、誰が、どんなデータに基づき、何を、いつ、述べたのか、など机上のパソコンで見るとも興味深いかもしれない。

今後はこのようなデジタルデータが主流になり、図書館に実際に見に来る人はその分減るかもしれない。ただ文字として印刷された原典は、いつでも図書館に行けば見ることができるといった保険のような機能は、これからもなくてはならない機能として図書館に期待されていよう。図書館は、人類共通の原典や論文、資料といった、いわば人類のダイヤモンドを維持し、必要に応じて誰でもが閲覧できる人間社会における頭脳として機能する場であり、また時には、新たな瞑想を膨らます夢見る場でもあるだろう。そんな人々にとって気持ちの安らげる場でもあって欲しいと願う。



自著を語る 本館蔵書100万冊目の本

岩田浩太郎編『民衆運動史2 社会意識と世界像』青木書店 1999年

本館蔵書100万冊目に拙編著が該当したという。偶然とはいえ未熟な本書が本館の記念すべき一書となったことをお許し願いたい。

本書は『民衆運動史 - 近世から近代へ -』全5巻の第2巻として企画され、1999年11月にシリーズ第1回配本として青木書店より刊行された。日本を中心に世界各地における近世～近代成立期の民衆運動について比較検討し、いわゆる戦後歴史学のフレームワークではとらえきれない運動の構造・政治文化・心性をえぐりだし、運動史の可能性をあらたに切り開こうと意気込んだ企画であった。編者の5名が1993年から集い、企画構成を練り、青木書店に出版を申し入れ、国内外の研究者に呼びかけた。本書刊行までの6年の間に、全巻・巻別の各レベルで編集・執筆者会議を随時開催し、切磋琢磨しあった。多くの研究者仲間を得た思い出の企画であり、そのネットワークはアジア民衆史研究会などの国際シンポジウムに活着している。

わたしが担当した第2巻『社会意識と世界像』は、「第1部 社会意識と正当性」「第2部 一揆物語の世界像」「第3部 主体形成の社会文化」の3部構成からなり合計10本の論文で編じた。民衆運動の独自の行動と意識、運動をささえる民俗や文化、運動をめぐる諸言説について実証研究を積み重ね、既成の理論的枠組みに還元しえないひろがりをもつ民衆運動の実態をえぐりだし、その意義・意味を当時の固有な政治文化ないし文明性の水準のなかに位置づけて把握していくことに努めた。編者の微力からなお盛り込むべき論点を残したが、カリフォルニア大学のアンさんの「一揆物語の世界史的比較」をはじめ、執筆者の方々はこれまでなかった視角から民衆運動が創り出す世界像や主体形成の意味をいきいきと解析した論文を寄稿してくださった。一覧いただければ幸いである（表紙には庄内藩天保一揆の絵巻「夢の浮橋」を使用した - 写真は1頁 - ）。

（いわたこうたろう・人文学部助教授）

電子図書館的機能整備のためのアクションプランを推進しています

山形大学では、昨年度学長の諮問により「電子図書館的機能整備の方策に関する報告書」がまとめられましたが、附属図書館では電子図書館化のための具体的なアクションプラン（行動計画）を下記のように策定して、推進しています。

1. 電子情報及び電子資料の収集・整備について

1) 電子資料の整備

CD-ROM等の電子的媒体の資料や、CD-ROM等の電子資料を利用するための機器を整備していきます。

2) 図書館業務システムの整備

新しい情報環境に対応したシステムへのバージョンアップを行っていきます。

3) 電子ジャーナルへの対応

現在利用可能な無料電子ジャーナルをより簡単に利用出来るようにしたり、有料電子ジャーナル導入についての情報収集・調査を行っていきます。

4) データベースの整備

本学の研究・学習をレベルアップする、国際的トップレベルのデータベースを導入します。既に、世界的な引用文献データベース「Web of Science」や、「雑誌記事索引」データベースの導入が決まっています。

2. 本学所蔵資料電子化について

1) 目録データベース遡及入力

引き続き、本学所蔵資料目録の電子化作業を行っていきます。

2) 本学紀要各編の電子化

編集委員会の許諾を得て、紀要各編の全文電子化を行っていきます。

3) 本学所蔵貴重資料の電子化

本学で所蔵している貴重な資料(中条家文書、高橋文庫、佐久間文庫など)の内容を電子化して公開し、国民共有の財産とします。

3. 情報リテラシー教育のための利用環境整備について

「情報プラザ」等により、図書館利用者の情報利用環境を整備していきます。また、図書館情報リテラシー教育を行うための設備を整備し、図書館情報リテラシー教育を行っていきます。

Web of Science

(その内容・機能と使い方)

1. Web of Scienceとは・・・

Web of Science (以下、「WoS」と略します。)とはインターネットで提供される最強の引用文献データベースで、世界各国で使用されています。

WoSの収録範囲は非常に学際的で、自然科学・社会科学・人文科学のあらゆる分野の第一級の雑誌の誌名・著者名・書誌事項・抄録・引用文献の情報が提供されています。WoSの特徴は、キーワードによる主題検索や著者名検索のほかに、引用文献に注目していることにあります。

WoSでは、「この論文はどのような論文を引用しているか?」、「この論文はどのような論文に引用されているか?」といった、研究者の思考プロセスどおりの情報の検索が簡単に行えます。そうした意味でWoSは、まさしくIT革命の申し子といっても過言ではないでしょう。

また、WoSは、

- ・ Science Citation Index Expanded (自然科学系)
- ・ Social Science Citation Index (社会科学系)
- ・ Arts & Humanities Citation Index (人文科学系)

の3つのデータベースで構成されていて、それぞれを「個別に」あるいは「組み合わせて」検索することが可能です。なお、3つのデータベースを併せると、約8,900誌以上の学術雑誌がカバーされていて、これらのデータは毎週アップデートされていますので、利用者は、常に最新の情報の入手が可能です。

附属図書館では、本年度からこの3つのデータベース全てを導入、全学4キャンパスへの提供を開始しています。

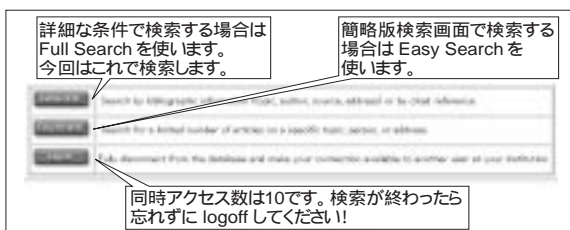
2. WoSの利用

1) WoSへの接続

WoSへは、山形大学附属図書館のホームページ

<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>

からリンクが張ってあります。図書館のトップページを開き、左側の【Web of Science】をクリックして表示される画面からリンクをしていますので、その画面で【Web of Science】をクリックすると、次のようなWoSのトップページが表示されます。



2) 検索方法の選択

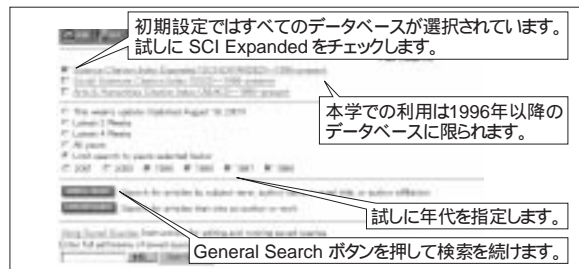
WOSには、【Full Search】と【Easy Search】の2つの

検索方法があります。

【Full Search】を選ぶと【General Search】(一般検索画面)または【Cited Reference Search】(引用文献検索画面)にアクセスできます。

【Easy Search】を選ぶと【topic】(テーマ検索)、【person】(人物名検索)あるいは【place】(著者所属機関名・地名検索)を行う簡略版検索画面にアクセスできます。

試しに、【Full Search】を選んでクリックしてください。次の画面が表示されます。

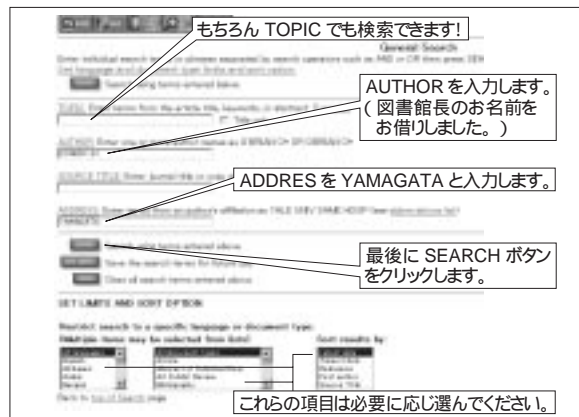


3) 検索対象データベースと検索対象年の指定

この画面でデータベースと検索対象期間を指定します。デフォルトでは、全データベースが全年代検索できるように設定されています。ただし、WoSは非常に高価であるため、当面、本学での利用は1996年以降のデータベースに限られます。

なお、ここで設定したデータベースおよび検索対象期間は【Logoff】ボタンをクリックするまで(あるいはこの画面で新たに設定し直すまで)適用されます。

では、【General Search】ボタンをクリックしてください。次の画面が表示されます。



4) 検索データの入力

この画面では、topics (テーマ)、authors (著者名)、source titles (雑誌名)、address (著者の所属機関名)から検索ができます。必要な検索フィールド(検索項目)に検索語を単語または句で、【and, or, not】・【same】を使って入力します。なお、検索語の後に「*」を入力すると語尾変化を無制限に検索し、「?」を入力すると一文字の語尾変化を検索(複数形・単数系を一度に検



より新しいニュースは、ホームページを！

<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>

中央 023(628)4913 医 023(628)5054

工 023(626)3019 農 023(628)2810

全館共通

Web of Scienceと雑誌記事索引が利用できます

昨年度、「電子図書館的機能整備の方策に関する報告書」が評議会で承認され、全学で利用する2つの大型データベースの導入が決まり、【雑誌記事索引】は本年7月から、【Web of Science】は9月から利用開始の運びとなりました。利用できるデータは【雑誌記事索引】は1975年から現在まで、【Web of Science】は1996年から現在までです。どちらも学内LAN接続のパソコンであればインターネットを通じてデータベースにアクセスできます。なお、アクセスには図書館ホームページをご利用ください。案内を掲載しております。(関連記事は4p)

図書館ホームページのリニューアル

9月からホームページが変わりました。下記のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>

各ページのリンク関係をシンプルにして、求めるページがすぐ探せるようにしました。また、新たにi-mode用ページを用意し、携帯電話から本日と明日の開館時間や、図書館トピックスが見られるようにしました。今後は、電子図書館的機能充実のため、本学紀要の全文データの提供や、図書館所蔵の貴重な資料の画像公開等も順次進めていく予定です。

中央図書館

情報プラザ開設

4月から学生の利用のための情報コーナー「情報プラザ」を開設しました。中央図書館入退館ゲートに入ってすぐの1階フロアに、これまで3階にあったニューメディアコーナーの機器、情報検索用端末5台・CNN放送受信設備・ビデオ視聴機器を移設し、新たに情報検索用パソコン11台、CD-ROM

検索システム(CDチェンジャー+パソコン)1台を設置しています。パソコンにはOffice2000を搭載しましたので、レポート作成もできると利用者には好評です。連日満席が続き、ノートパソコンの貸出サービスもはじめました。また、7月には情報プラザのホームページが開設されています。

八木文子展開催

今年4月、教育学部美術科講師として赴任された八木文子先生の銅板画作品をオープンギャラリーで展示しました。5月14日～6月29日の開催期間中、成澤学長を始め、たくさんの方々が作品を鑑賞されました。

医学部分館

<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/medical/MedMain.shtml>

夜間開館を延長しました

平成13年6月から、これまで20時までだった開館時間を21時まで延長しました。

書架を増設しました

夏期休業期間を利用して2階の書架を増設し、雑誌の移動を行いました。そのため、閲覧席がかなり狭くなり、ご不便をおかけしておりますが、ご了承ください。

また、中2階の厚生省関係の雑誌は1階の手動書架に、1階の辞書コーナーは奥の低書架へ配置替えをして、いっぱいになった学生用図書コーナーを整理しました。移動期間中は、大変ご不便をおかけしました。ご協力ありがとうございました。

工学部分館

<http://yzlib.yz.yamagata-u.ac.jp/>

ノンリニア・ビデオ編集機システムが利用できます

図書館3階のAV室に備え付けてあるノンリニア・ビデオ編集機システムは、コンピュータを利用したデジタル映像による、ノンリニアのビデオ編集を可能とするもので、セミプロ級の機種であるため、かなり高度な編集が可能であると同時に、その操作も専門的となっております。そのために、図書館職員及び各学科等から1名程度の技官に操作をマスターしてもらいました(一般の利用者はこれらの人たちから操作説明を受けながら利用することになります)。

農学部分館

<http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/nougaku/>

学生用図書配架はじまる

例年より早めに学生用図書の購入を始め、8月なかばに1回目の配架を終えました。閲覧室の模様替えにより、配架箇所は変わりましたが、できるだけ早い時期に選定された図書をとりそろえる予定です。また、参考図書は一番目のつくところへまとめましたので、ご利用ください。

附属図書館協議会委員名簿

(平成13年10月1日現在)(は委員長)

所 属	氏 名	任 期
◎附属図書館長	近 藤 慈 夫	12. 4. 1~14. 3.31
医学部分館長	加 藤 宏 司	13.10. 1~15. 9.30
工学部分館長	中 野 政 身	13. 1. 1~14.12.31
農学部分館長	貫 名 学	13. 4. 1~15. 3.31
人文学部教授	飯 島 武 久	12. 4. 1~14. 3.31
〃	伊 藤 宣 生	13. 4. 1~15. 3.31
教育学部教授	早 川 正 信	12. 4. 1~14. 3.31
〃	岡 田 毅	12. 4. 1~14. 3.31
理学部教授	澤 井 毅	13. 4. 1~15. 3.31
〃	仲 田 正 躬	12. 4. 1~14. 3.31
医学部教授	一 瀬 白 帝	12. 4. 1~14. 3.31
工学部教授	上 林 憲 行	13. 4. 1~15. 3.31
農学部助教授	豊 増 知 伸	12. 4. 1~14. 3.31

附属図書館自己評価委員会委員名簿

(平成13年10月1日現在)(は委員長)

所 属	氏 名	任 期
◎附属図書館長	近 藤 慈 夫	12. 4. 1~14. 3.31
医学部分館長	加 藤 宏 司	13.10. 1~15. 9.30
工学部分館長	中 野 政 身	13. 1. 1~14.12.31
農学部分館長	貫 名 学	13. 4. 1~15. 3.31
人文学部教授	飯 島 武 久	13. 4. 1~14. 3.31
教育学部教授	早 川 正 信	13. 4. 1~14. 3.31
理学部教授	澤 井 毅	13. 4. 1~15. 3.31
事務部長	川 野 茂 美	(官職指定)

平成13年度第1回附属図書館協議会審議事項

(平成13年7月19日開催)

1. 平成13年度附属図書館予算配分要項(案)並びに中央館、3分館への予算配分(案)について
2. 情報公開法の施行に対する「山形大学附属図書館学外者利用内規」並びに「山形大学附属図書館貴重図書取扱要領」の一部改正について
3. 「山形大学附属図書館貴重図書取扱要領」の一部改正について
4. その他

中央図書館ガイダンス計画（平成13年度後期分）

論文記事作成のための【雑誌記事検索】データベース活用法

平成13年10月30日（火）
 1回目：10時30分～12時00分（約90分間）
 2回目：13時30分～15時00分（約90分間）
 3回目：15時30分～17時00分（約90分間）

図書館のホームページを活用した情報検索法の基礎

平成13年11月30日（金）
 16時00分～17時00分（約60分間）

平成13年度 第3回

1. 内 容：本年度から導入されたインターネット版 [雑誌記事索引] (日本語文献検索用データベース) の活用法についての説明
2. 開催場所：中央図書館会議室
3. 参加対象：教職員・大学院生・学部学生 (3～4年生)
4. 講 師：日外アソシエーツ (株) 営業本部次長・村本俊雄氏ほか (予定)
5. 申込人数：1回約20名 (先着順) (事前申込制)

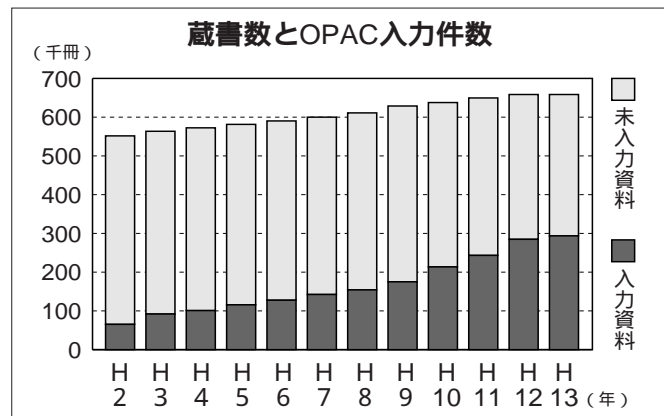
平成13年度 第4回

1. 内 容：ビデオテープ「新・図書館の達人」の放映及びリニューアルされた図書館ホームページを利用した情報検索法の説明
2. 開催場所：中央図書館会議室
3. 参加対象：学部学生
4. 講 師：情報サービス課学術情報係職員
5. 申込人数：約20名 (先着順) (事前申込制)

参加申し込み及びお問い合わせはサービスカウンターまたは情報サービス課学術情報係（内線4914、Eメール:jsagaku@kbureau.kj.yamagata-u.ac.jp）まで

中央図書館蔵書の約44%がOPACで検索できます!!

- * コンピュータ導入以前に受け入れた資料について、徐々にコンピュータ入力をしていましたが、平成10年度からは事業費により、5年間で10万冊を目標に入力を進めてきました。
- * 平成12年度より、これまで検索手段をもたなかった教育学部分館旧蔵の洋書について再整理することになり、洋書も徐々に入力し始めています。



原稿を募集中です

図書館利用上の建設的なご意見や、要望などをお寄せください。
 023(628)4910 Eメール jkasen@kbureau.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学附属図書館 2001年10月発行（年2回刊）

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 <http://www.lib.yamagata-u.ac.jp/>